

一人一人が互いのよさを認め、支え合う児童の育成

— C&Sによる客観的児童理解に基づいた

「1人1台端末併用学級活動プログラム」の作成・活用を通して —

研究構想図

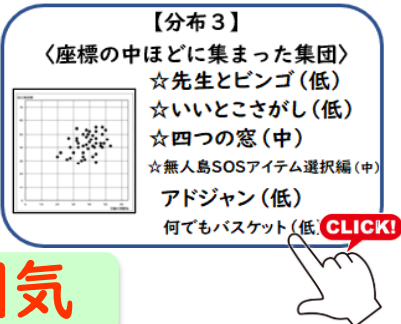
長期研修員 石井 千恵美

一人一人が互いのよさを認め、支え合う児童



C&Sの6分布に対応した

規律あるあたたかい雰囲気



「1人1台端末併用学級活動プログラム」 SSTとSGEを関連付けた学級活動の具体案を提案

事後の活動

定着: 学習内容を継続して行い、定着を図る

【**端末**: 自己評価、相互評価、振り返りの表出・発信・共有・蓄積】



C&Sの実態に基づいた

本時の活動

構成的グループエンカウンター (SGE): フィードバックし、よさを認め合う

【**端末**: 考えや振り返りの表出・発信・共有・蓄積】



C&Sの実態に基づいた

事前の活動

ソーシャルスキルトレーニング (SST): 集団生活、対人関係スキルを高める

【**端末**: モデリング動画の視聴やロールプレイを録画し共有】



学級集団と個に対しての手立て

多面的・多角的な援助・支援

【確かな児童理解】

◇ C&Sによる客観的児童理解

「C&S質問紙」: 学級の雰囲気と自己肯定感を把握する質問紙

「自己肯定感」を縦軸に、「学級の雰囲気」を横軸に取り一人一人をプロットで表し、散布図で集団と個の実態を同時に把握できる。また、学級の中で個々の児童が、どのような状態かを相対的に見取ることができる。プロットの分布から6つのタイプ(6分布)に分類され、予想される学級の実態を示している。

◇ 教師による日常観察・アンケート・ソーシャルスキル尺度調査 等



【児童の実態】

自分の思いを相手にうまく伝えられない

【教師の願い】

実態に基づいた具体的な言葉掛けや支援を知りたい

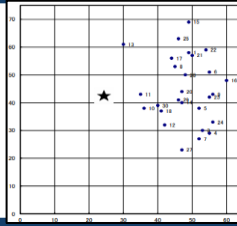


【国や県の課題】

不登校児童生徒数の増加
確かな児童理解

実態に基づいた「1人1台端末併用学級活動プログラム」活用例

C&Sによる客観的児童理解



例えば、この分布だったら、このような学級活動を行ってみるとよいね!



実践例「ブレインストーミング」

事前の活動

SST「上手な質問の仕方」

実態に基づいたSSTを行うことで、集団生活と対人関係スキルが身に付き、規律ある雰囲気になるね!



規律ある雰囲気



上手な質問の仕方のポイント

- 相手の都合を聞く
- 聞きたいことを決めて話し、理由も聞く
- お礼を言う



上手な質問の仕方を使うと、みんなが気持ちいいね。

【モデリング動画を視聴】

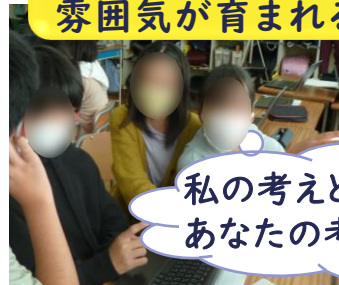
本時の活動

SGE「ブレインストーミング」

SSTとSGEを関連付けて行うことで、規律あるあたたかい雰囲気が育まれるんだね!



あたたかい雰囲気



私の考えとは違う考えだけど、あなたの考えもよいね。

テーマ「幸せなクラスを作るために一つだけ身に付けられる能力」

【端末を活用した話し合い】

事後の活動

定着「インタビューにチャレンジ」

みんなでよさを認めることで、支え合うことができるようになってきたね。



よさを認め、支え合う

テーマ	好きな給食	放課後何をするか	好きな教科	最近ほめられたこと	今、がんばっていること
① 都合をさく	A	A	A	A	A
② きらいなことを決める	B	A	A	A	A
③ めてほしい理由	何て聞くのか分らない	友達をおして聞けた	理由を聞いてなるほどと思った	理由を聞いてよかった	理由が分かった
④ お礼を言う	A	A	A	A	A



自分から「話しやすかったよ」って伝えてみよう。

【端末に活動記録を入力】

成果

客観的児童理解を行い、教師の日常観察を加えて把握した集団と個の実態に基づいて、本プログラムを教師が活用することで、規律あるあたたかい雰囲気が育まれ、1人1台端末を併用することで、互いのよさを認め、支え合う児童の育成が図られた。

課題

集団や個の支援をより効果的に行えるように、具体的な言葉掛けの仕方等を例示し、年間指導計画に位置付け実施したり、より多くの場面で活用し、見直したりすることで、SST・SGEの内容が充実するよう、学級の実態に基づいて改善を図っていく。

提言

よさを認め、支え合う児童を育成するためには、日常観察とともに客観的児童理解に基づいた援助・支援をしていきましょう。さらに、実態に基づいた援助・支援では、1人1台端末のよさを組み合わせ、使用する場面を工夫して、活用していきましょう。